

令和4年6月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

白ネギにおけるシロイチモジヨトウの防除対策について

県北部地域に設置したフェロモントラップでは、平年より早い4月上旬にシロイチモジヨトウの初誘殺が確認され、誘殺数も平年と比較して多く確認されています（図1）。また、北部振興局で実施しているフェロモントラップ調査でも5月上旬から誘殺が確認されており、5月下旬までは令和3年度と比較して誘殺数は少なく推移しているものの、今後の発生動向に注意が必要です（表1）。

本虫は高温で発生が助長されますが、1ヶ月予報（5月26日・福岡管区气象台 発表）によると、5月28日以降の気象は気温が平年並または高い確率ともに40%と予想されていることから、本虫の多発が懸念されます。

圃場でのシロイチモジヨトウの発生状況に注意し、早期防除に努めてください。

【作物】 白ネギ
【病害虫】 シロイチモジヨトウ

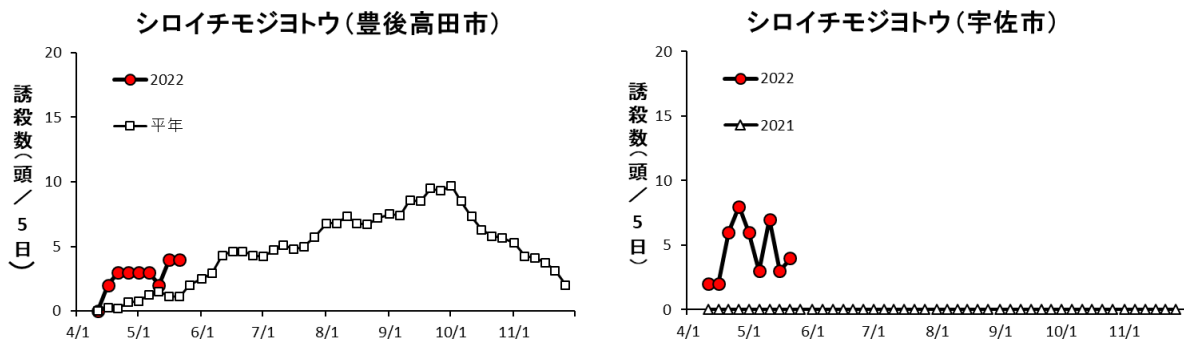


図1 県北部地域におけるシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

表1 豊後高田市呉崎における白ネギシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査（北部振興局実施）

R4年	設置日 4月28日					
誘殺数	1工区	2工区①	2工区②	3工区	旧干拓①	旧干拓②
5月10日	18	3	35	21	11	5
5月24日	45	14	61	35	21	19
【参考】 R3年	設置日 4月27日					
誘殺数	1工区	2工区①	2工区②	3工区	旧干拓①	旧干拓②
5月11日	109	48	60	14	40	-
5月25日	182	121	142	66	52	68

防除上の注意事項

- ア 本虫は葉身内に侵入することで薬剤がかかりにくくなり、防除効果が著しく低下するため、圃場を定期的に確認し早期防除に努める。
- イ 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守する。散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量（ラベル記載内容の範囲内）で丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下した個体群が確認されており、散布後に防除効果が認められない薬剤は使用を控える。感受性検定で本虫に対して有効性が確認された薬剤を下記に掲載するので、防除薬剤選定の参考にされたい（表2）。また、本虫は農薬に対する抵抗性を獲得しやすいため、同系統の薬剤を連続して使用しない。

表2 シロイチモジヨトウに対し高い防除効果を示した薬剤の一例¹⁾

IRAC	系統名	薬剤名
5	スピノ	ディアナSC
6	マクロ	アフーム乳剤
22A	その他	トルネードエースDF
30	その他	グレーシア乳剤
UN	その他	プレオフロアブル

1) 感受性検定（2017,2018,2021 大分）の結果より一部薬剤を抜粋

- エ 交信攪乱剤は殺虫剤と比較して抵抗性が発達しづらく被害抑制に効果的だが、効果は約3か月で減少していくため、設置後3か月が経過した際には圃場内での発生状況に注意する。
- オ 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>）を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

